

## 「早出介入により独歩自立に至った新型コロナ後肺炎患者の一例」

田上記念病院 リハビリテーション部  
○田中精一 東友梨奈 川上剛 中村浩一郎

### はじめに

回復期リハビリテーション病棟調査報告書(2023年2月)における時間外リハビリテーション実施状況によると回答のあった1,146施設の内、早朝で実施しているPT、OTは約3割、STは18.1%である。早出業務(以下、早出)の効果として、脳卒中患者の更衣・排泄・入浴などの自立に有益という報告や、更衣動作の改善に繋がったとの報告があるが、内部障害患者についての報告は少ない。今回、新型コロナ後肺炎患者に対し早出介入実施により独歩自立となった症例を経験した。この経過について考察を踏まえて報告する。

### 症例紹介

80歳代、女性。X年Y月Z日新型コロナウイルス感染罹患。Z+25日当院療養病棟入院。入院時酸素流量安静時5L、労作時7L。10m歩行31.9秒、6分間歩行180m、FIM70点(運動項目44点)。Z+70日に回復期リハビリテーション病棟へ転棟。

### 方法及び経過

Z+76日より早出介入開始。早出介入での病棟内歩行練習は独歩とし、セラピストは酸素流量と歩行時のSpO<sub>2</sub>測定、疲労感、歩行バランス等を評価。Z+91日に病棟内シルバーカー歩行開始。Z+98日に病棟内独歩監視レベルとなり早出介入終了。Z+127日に酸素OFFとなり病棟内独歩自立となった。

### 結果

退院時(Z+151日)、酸素OFF、10m歩行12.5秒、6分間歩行290m、FIM122点(運動項目87点)。HOT導入せず自宅復帰となった。

### 考察

内部障害患者に対しても早出介入にてセラピストによるSpO<sub>2</sub>のモニタリング、歩行評価を行えたことで、スムーズに病棟歩行の導入に至った。また、病棟内歩行により患者の活動量が向上したこと、日勤帯の理学療法では呼吸リハビリテーションを集中的に行うことが出来たことで、酸素OFFでの在宅復帰が可能となったと考える。今後は症例数を増やし早出介入のADLに対する効果検証を行っていきたい。